

第14回

製品安全対策優良企業表彰(PSアワード)

企業や団体の製品安全への優れた取組を募集し、表彰しています。
あなたの会社の製品安全対策をご紹介ください。

製品安全を「価値」に
その取組を応援します!



受賞企業講演会



経済産業省

Ministry of Economy, Trade and Industry

目 次

1. 令和2年度 受賞企業
2. 表彰事業の概要
3. 審査基準 4つの視点
4. 企業・団体の声

1. 令和2年度 受賞企業

令和2年度 受賞企業

大企業 製造・輸入事業者部門

経済産業大臣賞

- パナソニック株式会社 アプライアンス社
ランドリー・クリーナー事業部

優良賞（審査委員会賞）

- 株式会社アシックス
- 株式会社コロナ

大企業 小売販売事業者部門

技術総括・保安審議官賞

- 大阪ガスマーケティング株式会社

特別賞（審査委員会賞）

団体部門

- 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

ネットモール運営事業者部門 **new**

- 株式会社メルカリ

中小企業 製造・輸入事業者部門

経済産業大臣賞

- マツ六株式会社

技術総括・保安審議官賞

- 有限会社鈴木

優良賞（審査委員会賞）

- 新潟精密鑄造株式会社

中小企業 小売販売事業者部門

経済産業大臣賞

- 株式会社大一電化社

技術総括・保安審議官賞

- 株式会社カイノ電器



2. 表彰事業の概要

製品安全対策優良企業表彰とは

経済産業省が、企業や団体の、製品安全への優れた取組を募集し、表彰する制度です。

審査のポイント（何を審査するか？）

製品安全を確保するための体制を審査するとともに、特に優れた取組に重点を置いて審査します。

- 社内のルールや仕組みの元で、実際に行われている取組を重要視します。
- 製品自体の安全性を評価するものではありません。

審査における考え方

- 人が作る以上、事故はゼロにならない
(人は必ずミスをする)
- 事故が起きた後に、消費者の立場に立って、
真摯にスピーディーに対応することが大切

過去の製品事故やリコールなどの有無は問いません。
事故やトラブルの経験を糧に、どのように取組を改善したか、
どのように体制を整備しているかなどを確認します。



3. 審査基準 4つの視点

審査基準：一次審査、二次審査の評価方法

1. **4つの視点**（特別賞は**2つの視点**）に関する取組が**総合的に優れている企業・団体**
2. **4つの視点**（特別賞は**2つの視点**）いずれかにおいて**卓越した取組**を行っている**企業・団体**

取組の先進性、積極性、意欲性等の観点で優れた企業・団体を選出します。



審査基準

＜4つの視点＞

製造事業者・輸入事業者部門
小売販売事業者部門

視点1

安全な製品を
製造・輸入（仕入・販売）
するための取組

視点2

製品を安全に
使用してもらうための取組

視点3

出荷後に安全上の問題が
判明した際の取組

視点4

製品安全
文化構築への取組

審査基準
＜2つの視点＞

特別賞

視点1

製品の安全を
確保・支援するための取組

視点2

製品安全文化構築への取組

今年度の注目ポイント

- 今年度は次の取組を特に加点評価。
 - ・ サイレントチェンジ対策をはじめとした
製品安全実現に向けたサプライチェーン全体の管理
例: 一次取引先に対し二次・三次の調達先に対するモニタリングを契約で義務付け
 - ・ 高齢者における製品事故の未然防止に向けた取組
例: 高齢者の身体的特徴や認知的特徴、使用環境等を踏まえたリスクアセスメントの実施
- ステークホルダーに対する製品安全に関する情報発信を審査基準に追加。
例: 製品安全への継続的な取組に関するステークホルダーへの積極的な情報発信

受賞企業の評価ポイント（製造・輸入事業者）

海外拠点
監査員の
育成

グローバル
視点製品安全
基準策定

PDCA
サイクルの
実践

製品安全実
践のための
体制づくり

Q&Aによる
誤使用防止
の情報提供

IoT・ビックデータを
活用した使用者
情報の収集分析

利用者行動
分析で
ニーズ把握

リスクアセス
メント手法
開発と運用

視点1

安全な製品を
製造・輸入（仕入・販売）
するための取組

原因究明の
ための解析
技術

視点2

製品を安全に
使用してもらうための取組

ネットによる
情報発信

新技術
採用による
安全性向上

最悪事態を
想定した
試験実施

製造委託工
場における
品質確保

経年劣化を
考慮した
品質管理

ヒューマンエ
ラー発生防
止の取組

遠隔診断
保守による
製品監視

顧客との
コミュニケー
ション確保

安全確保に
向けた施工業
者との連携

誤設置防止
のための
取組

経営トップ
の関与

資材調達に
おける安全
管理徹底

高齢者を
意識した
安全設計

原因究明と
再発防止の
徹底

部品レベル
でのトレーサ
ビリティ

グループ社
員向け幅広い
安全教育

地域と協力
した啓発
活動

視点3

出荷後に安全上の問題が
判明した際の取組

サプライ
チェーン全
体の協力体
制

サプライヤー
表彰制度

視点4
製品安全
文化構築への取組

他業種との
製品安全
文化醸成

IoT技術
によるデータ
収集

不具合・事
故に対する
迅速な対応

セカンド
ユーザー登録

業界全体で
の安全性
向上

社外との
連携強化

今年度
追加事項

カスタマーセン
ターの設置

製品安全
情報の社内
共有推進

人材育成と
技術継承の
取り組み

オンライン
教育の
充実化

受賞企業の評価ポイント（小売販売事業者）

安全性重視の商品化

技術評価の徹底と事故防止策

全社リスク管理体制の構築

製品安全責任者配置と権限明確化

グループ企業の品質基準構築

顧客の声をメーカーに提供

リスクアセスメントによるリコール判断

回収の素早い意思決定

視点1

安全な製品を製造・輸入（仕入・販売）するための取組

仕入れプロセスの規定化

視点3

出荷後に安全上の問題が判明した際の取組

品質トラブルナレッジの共有

使用者視点による取扱製品選定

技術評価会の海外拠点への展開

購入履歴と日常業務で安全を提供

事故発生情報の全社共有

顧客との双方向コミュニケーション

故障データ分析に基づく顧客対応

使用者への丁寧な安全情報提供

苦情処理情報の有効利用

視点2
製品を安全に使用してもらうための取組

Web等活用による安全情報発信

IoT技術による遠隔での見守り

販売前の訪問下見サービス実施

家庭向け総合メンテナンスサービス

製品安全文化定着を図る情報提供

自社・取引先の人材育成

業界全体の安全レベルをリード

製品安全意識向上のための展示会

社員向け製品安全技術研修の強化

視点4

製品安全文化構築への取組

力量の定量評価

取引先の適正評価

メーカーへの改善提言

加盟店含めた情報共有と人材育成

製品安全を企業経営の原動力に

今年度追加事項

4. 企業・団体の声

審査を受けた企業・団体の声

- 自社の取組内容を改めて再確認しながら資料作成することができた。
- プレゼンテーション審査にあたりPRする項目を取捨選択することで、自社の本当の意味での強みや、ウィークポイントを知ることができた。
- 自社の取組を客観的に見ることができ、改善ポイントの気付きにつながった。
- 応募の過程を通じて、社内の各部における製品安全に対する取組内容を把握する機会が得られ、最新情報にアップデートすることができた。
- 現地調査は想定していたより深掘した調査内容で驚いた。結果的に自社の強みと課題が浮き彫りなり、有意義であったと感じている。
- フィードバックコメントにより、求められている製品安全活動の内容について理解できた。
- 経済産業省・審査委員・事務局との意見交換により、製品安全の実現に向けた知見を得ることができた。

受賞企業の声

- 自社の製品安全への取組が評価されたことで社員のモチベーションがあがった。
- 従前から関係のある企業・団体からお祝いの言葉を頂戴した。
- 自社のSNSやウェブサイトです受賞の事実を広く発信した。
- 受賞の事実を自社のサステナビリティレポートでPRする予定。
- 受賞企業の証である「製品安全対策優良企業ロゴマーク」を自社カタログや名刺で積極的に使っていきたい。
- 製品安全と品質に関わる団体から、自社の取組内容について講演依頼をいただいた。
- 受賞が業界誌で取り上げられた。
- 今後はぜひ、製品安全対策ゴールド企業を目指してチャレンジしていきたい。

ご清聴ありがとうございました。

問い合わせ先

製品安全対策優良企業表彰（P Sアワード）事務局
MS&ADインターリスク総研（株） リスクマネジメント第三部
製品安全グループ

担当：鶴田、佐藤

メールアドレス：ps_award2020@ms-ad-hd.com

電話：03-5296-8974